

環境目標（４）地球環境保全に貢献するまちづくり

～地球環境に配慮したライフスタイルへの変換～

～ 現況 ～

親と子の走る環境教室（循環社会推進課）

親と子の「走る環境教室」は、夏休み中の市内の小学生とその保護者を対象に参加者を募集し、マイクロバスなどを使って、市内外のリサイクル工場や環境関連施設の見学や勉強会を通じ、環境問題に対して理解を深め、その対策について親子で考えるものです。

【親と子の走る環境教室の開催状況】

年度	見学先
H13	県下水道科学館（平和町）自然共生研究センター（岐阜県川島町）
H14	王子製紙株式会社春日井工場（春日井市）愛知県環境調査センター（名古屋市）
H15	トヨタ「里山学習館エコの森ハウス」（豊田市）
H16	愛知県下水道科学館（平和町）愛知県環境調査センター（名古屋市）
H17	川売・梅の里、四谷・千枚田（旧鳳来町）段戸・きららの森（設楽町）

環境美化活動（循環社会推進課）

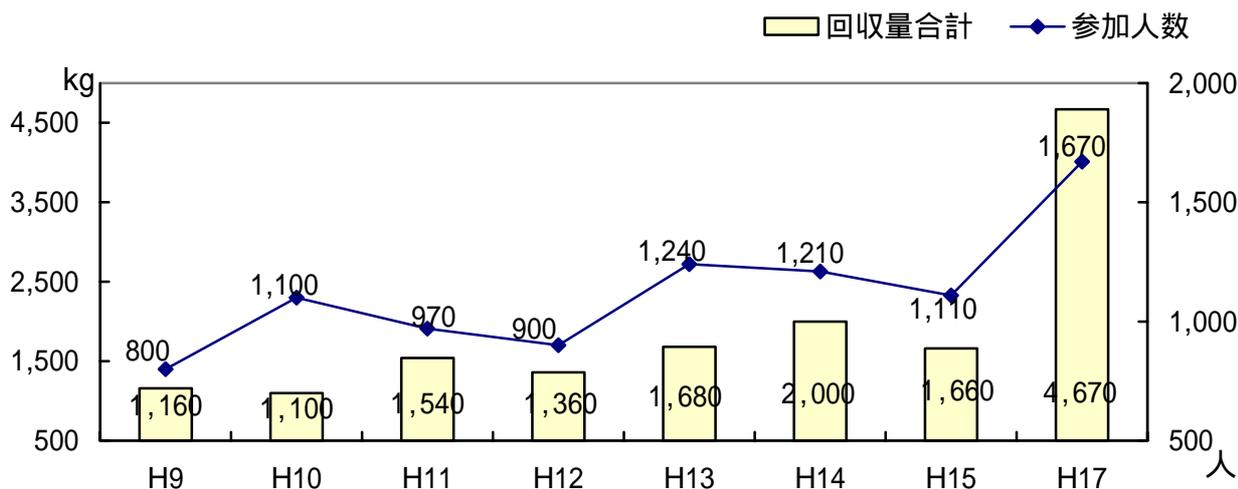
本市では、「新城クリーンハート・クリーンシティ作戦」「新城クリーンアップ作戦」など市民憲章推進協議会が主体となった大規模な清掃活動や小規模団体・行政区の独自の清掃活動を展開しています。

【新城クリーンハート・クリーンシティ作戦実施状況】

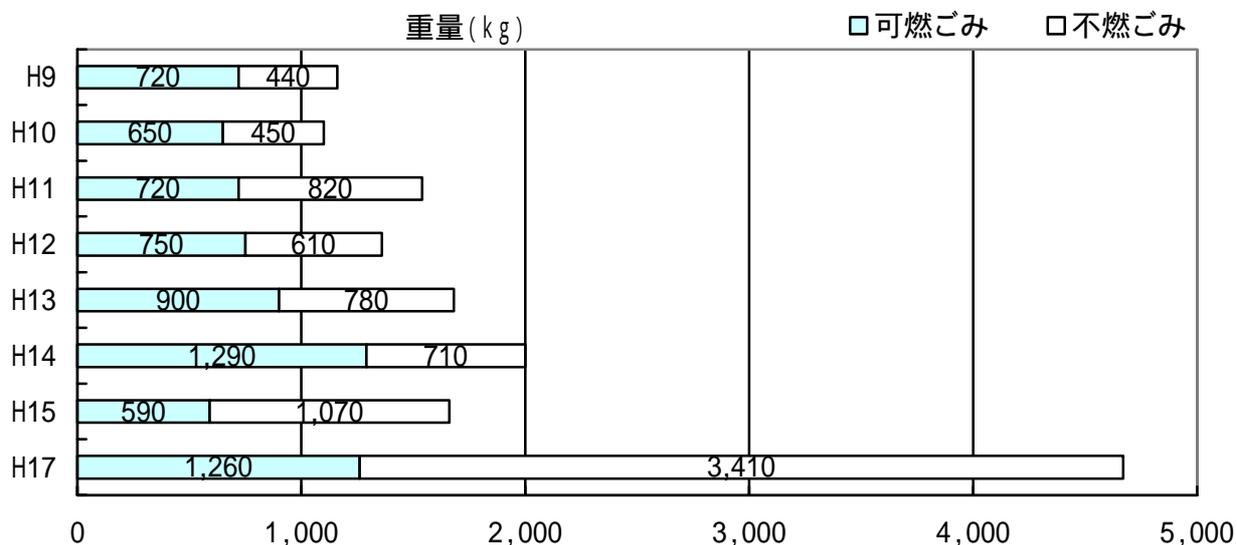
年度	実施場所
H11	桜淵公園及び周辺道路、新城文化会館周辺、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近
H12	桜淵公園及び周辺道路、新城文化会館周辺、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近
H13	桜淵公園及び周辺道路、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近、東名高速道路下から静岡県境
H14	桜淵公園及び周辺道路、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近、東名高速道路下から静岡県境
H15	桜淵公園及び周辺道路、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近、東名高速道路下から静岡県境
H17	桜淵公園及び周辺道路、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近、東名高速道路下から静岡県境

平成 16 年度は雨天のため中止。

【参加人数と回収量の推移】



【ごみ回収量内訳】



【その他団体の清掃活動等の実施状況】(平成17年度)

事業主体	実施日	参加人員	活動事業内容
新城タバコ販売協同組合 婦人部	10月28日、12月9日	延80名	文化会館周辺、桜淵公園
東新町の環境を考える会	10月10日、2月13日	60名	東新町区内
舟着小学校	10月28日、11月2日	延157名	日吉区内豊川河川敷、通学路
東部交通安全推進協議会	11月14日	20名	東部地区主要道路
千郷中学校2年C組	11月22日	38名	田町川
中宇利区	1月9日	12名	福津地内県道区有林
石田老人クラブ	12月26日	15名	市道石田豊島線、桜淵公園
新城小学校	1月27・28日	527名	学校周辺
新城市老人クラブ	3月10日	300名	桜淵公園
石田区	3月13日	-	石田区内

上記内容は市町村合併後の実績。

森林総合産業の創出（森林政策課）

平成 13 年度、新城市の木質バイオマス利用の取り組みを始め、翌年度「新城市地域新エネルギービジョン」を策定、平成 15 年度にビジョンの中心となる木質バイオマス利用の事業化計画調査を実施し調査報告書として取りまとめました。

これらの経緯を踏まえ、平成 16 年度に内閣府・地域再生本部の「地域再生推進のためのプログラム」に基づく計画が認定されました。

【新城市地域新エネルギービジョン】

化石資源の枯渇や地球の温暖化など地球規模の環境問題を踏まえ、これまでの省エネルギーの取り組みを一層充実するとともに、自然の恵み・地域に潜在する豊富な自然資源を最大限に活用する新しいエネルギー利用のあり方を確立し、同時に地域環境の改善・向上と地域経済の再生・活性化を図ることを目的として策定。

【木質バイオマス利用事業化調査】

新城市地域新エネルギービジョンのリーディングプロジェクト - 「木質バイオマス資源化センター」「木質バイオマス・コジェネプラント」 - に「小規模な木質バイオマス発電施設」を加えた 3 つの施設の事業可能性の検証のための調査。

委員会・検討会等

委員会・検討会名	回数
新城市・鳳来町木質バイオマス利用事業化調査委員会	6 回
木質バイオマス利用事業化調査担当者検討会（新城市・鳳来町職員）	4 回
木質バイオマス利用市町村連絡会（東三河 17 市町村）	3 回
新城製材協同組合・鳳来町製材協同組合との話し合い	8 回
三河材流通加工事業協同組合との話し合い	7 回
湯谷温泉旅館関係者との話し合い	4 回

製材所アンケート ... 32 社を対象。補足ヒアリングを兼ねて直接回収。

木質バイオマス資源量の把握

段階	把握する項目
第 1 段階	現状の木質系廃棄物（木材製品副産物）の量
第 2 段階	林地残材の量
第 3 段階	持続可能な林業をめざすことによる木質バイオマス資源の収穫量

木質バイオマスのエネルギー変換に関する調査

木質バイオマス資源を原料にしたエネルギー変換技術「直接燃焼」「熱化学的変換」「生物化学的変換」「その他の変換」のうち、わが国において利用が容易かつ経済的で実用化事例のある「直接燃焼」「熱化学的変換」について調査。

木質バイオマス利用施設の調査

施設	調査項目
木質バイオマス資源化センター	地域の木材が集まる三河材流通加工センター内およびその周辺を調査。
木質バイオマス・コジェネプラント	湯谷温泉の温泉施設の追い焚き燃料を化石資源から木質バイオマスへの転換可能性調査。
小規模な木質バイオマス発電施設	木質バイオマス資源化センターおよび木質バイオマス・コジェネプラントとセットで調査。

環境価値と公共性を考慮した経済性評価と事業主体の検討

エネルギー問題・環境問題を踏まえ、事業採算や運営も含めた実現可能性（事業化）の判断は、森林の公共的側面に配慮し＜環境価値＞に軸足をおいて検討。

【新城市・鳳来町木質バイオマス利用事業化調査報告書】

調査により、木質バイオマス利用は、森林へのかかわりと木材の生産・流通・加工システムの変革を伴うものであり、エネルギーや環境、観光、教育などにかかわるさまざまな組織や企業との連携が求められることから、これらを踏まえ、森林環境を保全・育成しながら森林資源を活用する持続可能なシステムづくりが必要であることがわかりました。

<地域再生計画・森林総合産業の創出>

豊かな地域資源である森林や木材にかかわる暮らしと経済活動を林業・製材業に限定せず、森林の持つ多様な機能（生物多様性保全、地球環境保全、土砂災害防止・土壌保全、水源涵養など）と多様な価値（快適環境形成、保健・レクリエーション、文化、物質生産など）に着目し、森林管理、森林教育、新エネルギー供給、自然循環型農業、滞在体験型観光など新規事業化を促進するとともに森林資源を活用する能力を持った人材の育成により雇用機会を増やすなど産業活動の活発化を図るものです。

【地域再生の取り組みを進めようとする期間】

取り組みの段階	計画の内容
第1段階（2004.6～2005.3）	森林総合産業の足がかりを確立
第2段階（2005.4～2008.3）	取り組みの全体的な仕組みを確立
第3段階（2008.4～2012.3）	持続可能社会システムの一環として森林総合産業を確立

【地域再生計画により講じようとする支援措置の番号及び名称】

番号	支援措置	関係省庁
10901	地域再生雇用支援ネットワーク事業の集中化	厚生労働省
11203	地域再生支援のための「特定地域プロジェクトチーム」の設置	国土交通省
230003	バイオマスタウン（仮称）の実現に向けた取り組み	農林水産省

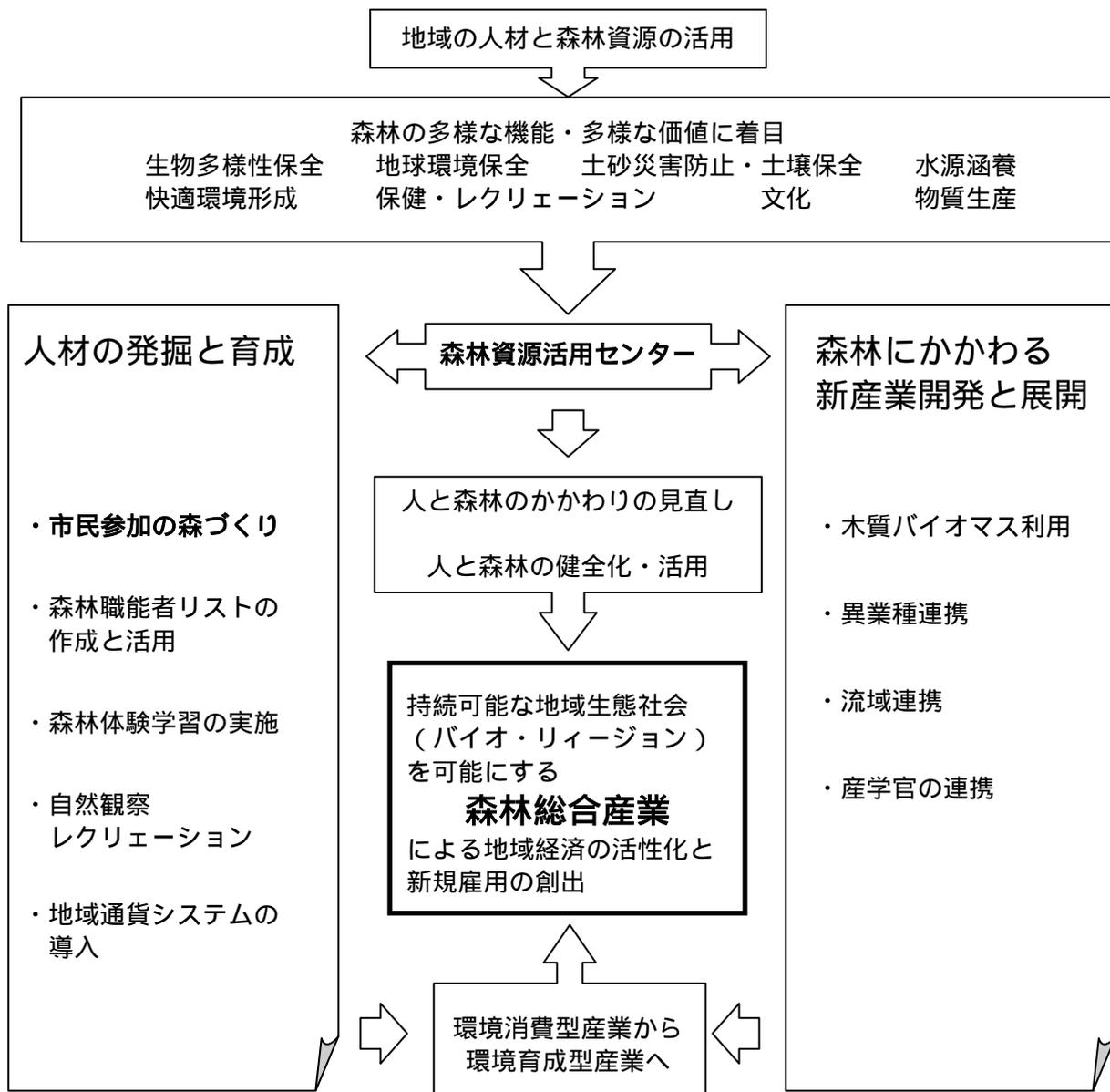
【森林資源活用研究会】

平成 16 年 3 月、これまでの取り組みにより把握した問題点や課題に対し、多面的かつ専門的な観点からアプローチし、森林資源の健全化と木質バイオマス利用にかかわる技術や仕組みについて調査・研究を進めるため「森林資源活用研究会」を設置しました。

森林資源活用研究会（平成 17 年 10 月 1 日現在）

所 属		役 職	氏 名
専 門 委 員	岐阜県立森林文化アカデミー	学長	熊崎 實
	豊橋技術科学大学工学部エコロジー工学系	教授	北田 敏廣
	豊橋技術科学大学工学部エコロジー工学系	助教授	成瀬 一郎
	(株)富村環境事務所	所長	富村 周平
	(株)森のエネルギー研究所	代表取締役	大場 龍夫
	愛知県企画振興部地域振興課	主査	佐久間 啓彰
庁内委員 7 名、事務局 5 名			

【森林総合産業の創出・概念図】



キーワード 環境を思いやるまち

施策の目標 環境に関する生涯学習の推進

評価

教育のなかに環境問題を積極的に取り込むとともに、子どもから高齢者に至るまで環境に親しみ考えられる仕組みづくりを行い、生涯学習を推進します。

施策項目

子供の頃からの環境体験教育の推進

親と子の「走る環境教室」(循環社会推進課)

平成 18 年度は、「環境にやさしい行動へのきっかけを楽しく学ぶ」をテーマとして、日常生活において身近な電気などのエネルギーのしくみを楽しく学び、地球温暖化とのつながりを考えるため「でんきの科学館」「エコパルなごや」を見学しました。

開催日	参加人数
平成 18 年 8 月 20 日 (日)	子供 11 名 大人 8 名
26 日 (土)	子供 12 名 大人 9 名



でんきの科学館での体験の様子



アルミ缶リサイクル工作の様子
～エコパルなごや～

課題・問題点等

参加人数が年々減少傾向にある。

次年度以降の展開

継続して開催していく。(見学先等は未定)
アンケートの回答を参考に、多くの方が楽しく参加できるよう企画。

施策項目

子供の頃からの環境活動参加の促進

ジュニアナチュラリスト養成楽級～めだかの楽校・川ガキ教室～
(鳳来寺山自然科学博物館)

1 年を通して連続 5 回の教室で 22 人の登録がありました。

季節ごとに川の魚や水生昆虫の生活をじっくり観察し、季節によるその生態の変化や川の変化などを知る「川」博士になってもらおうというものです。

昔は「川ガキ」だった親世代との川でのふれあいにより、地域の環境保護へとつながる取り組みです。



課題・問題点等

開催日程の調整が非常に難しい。

次年度以降の展開

豊川の「石ころ」に注目し、川原に出かけて石の調査、標本作りなどを行う。石のふるさとである地域の地質を知る教室の開催。

環境に関する各種講座・研修・イベントなどの開催を通じて環境学習の普及啓発を図るとともに、活動拠点となる場の確保とその支援体制を整えます。

施策項目

環境に関する各種講座・研修・イベントなどの開催

市民環境講座（循環社会推進課）

身の回りの自然環境を見つめ直す機会として、この地方の自然環境に詳しい方々を講師に市民環境講座を開催しています。今まで知らなかったこと、気づかなかったことを発見することで、本市の自然の再認識を図ります。

【市民環境講座実施状況】(平成17年度)

回数	テーマ	実施日	講師
第1回	豊川流域の霞堤とはげ山	9月25日	藤田 佳久
第2回	きのご観察会	10月22日	加藤 貞亨
第3回	野鳥を楽しむ	11月5日	皿井 信
第4回	東三河のジュエリー	12月17日	横山 良哲
第5回	有機循環農業	1月14日	松沢 政満
第6回	早春の植物探訪	3月11日	石川 静雄

課題・問題点等

講座参加者人数の減少。
講座テーマの固定化。

次年度以降の展開

講座開催案内の市民PR方法を検討し、より多くの方に参加してもらえよう工夫していく。

施策項目

環境学習の拠点整備とネットワーク化

博物館ガイドツアー（鳳来寺山自然科学博物館）

自然の楽しさ・魅力をもっと知ってもらうため、博物館を拠点に鳳来寺山周辺の四季折々の自然を職員がガイドとなり案内します。

ガイドの種類

・一般コース

（鳳来の自然・観察ガイドブックに基づき案内）

・学校コース

（鳳来寺山観察ガイドブックに基づき案内）



ガイドツアー 地層を観察

課題・問題点等

ガイドのできる職員が足りない。
ガイド職員の育成。

次年度以降の展開

ガイドボランティアの導入を検討するとともに人材育成を行う。

指導者の育成をはじめ地域コミュニティなどの活動グループづくりを促進するため、市民や企業の参加を積極的に支援します。

施策項目

地域コミュニティづくりの促進

環境活動につながる学習会（循環社会推進課）

人と人とのつながり、団体と団体の協働など環境活動における市民の役割の大切さを考え、これからの環境の取り組みを一步一步確実に進めるために学習会として開催しました。

【環境活動につながる学習会の開催状況】

回数	テーマ
第1回	環境活動と市民力・人間力 (平成18年1月20日) 講師 谷岡郁子氏(中京女子大学学長)
第2回	環境に配慮した魅力ある地域づくりを になう市民力(平成18年3月18日) 講師 吉本哲郎氏(熊本県水俣市役所)



グループワーク後の発表の様子

課題・問題点等

2年間にわたり、同じ講師を依頼している。

次年度以降の展開

継続して開催していく。(講師は未定)
様々な目線・知識・経験などから学習できる機会としたい。

施策項目

市民や企業のコミュニティ活動への参加支援

みんなで作る博物館(鳳来寺山自然科学博物館)

友の会会員が日ごろの活動の成果を発表し、活動に関する情報交換の場として博物館の一角を使い、準備から展示まで市民の手づくりの博物館「みんなで作る博物館」事業を行っています。



課題・問題点等

事業の広報手段の検討。

次年度以降の展開

市内各小学校で総合学習の時間等に行っているものを、学校だけでなく地域のより多くの方にも見てもらう機会としていく。

地球規模の環境問題に関する情報提供に努めるとともに本市から発生する環境負荷の軽減対策を市民とともに実施します。また、環境保全面の国際交流を県や近隣自治体との連携を図りながら地球規模の取り組みへと導きます。

施策項目

市民・事業者参加の手法・仕組みづくり

森林総合産業の創出（森林政策課）

【森林整備・活用市町村連絡会】

平成 15 年度に設立した「木質バイオマス利用市町村連絡会」がその名称を変更し、本市を事務局として開催しているものです。木質バイオマス利用を中心に新たなしくみづくり等を、豊川流域を単位として広域的に考えていこうとするものです。

【実施すること】

- 1．森林資源の活用についての意見交換
- 2．環境保全面についての意見交換
- 3．地域における新たな森林利用の経済システムについての意見交換

【開催状況】

開催日	計画の内容
第 9 回 (平成 17 年 11 月 8 日)	地域木材の有効活用 三河湾浄化とアオサ処理に関する循環型システム構築の取組 ぼうらい・いろいろの森づくり

【小型木ガス発電システム】

導入した小型木ガス発電システムは、木材チップを利用した発電出力 1 キロワット強のデモンストレーションシステムです。木質バイオマス利用の事業化に向け、市民をはじめより多くの人に木質バイオマス利用の取り組みを普及・啓発し、また、環境教育・学習用に活用しています。

木材ガス化発電システムの流れ

燃料投入口から木材チップを投入。
着火口より火を入れて点火。
送風により炉内で燃焼開始。
炉内温度上昇に伴いガス発生。
冷却装置、フィルターを通してガスを清浄化。
発電機にガソリンでなくガスを送り込む。
ガスで回った発電機が電気を起こす。



課題・問題点等	次年度以降の展開
取り組みの活発化。	計画に沿った活動を積極的にPRしながら展開していく。